

ビデオ 通信

2020年
10月22日(木)
No.4418

月・木曜日発行
1ヶ月¥11,000(税別)
発行：飯澤剛 編集：齋藤浩一

ユニ通信社

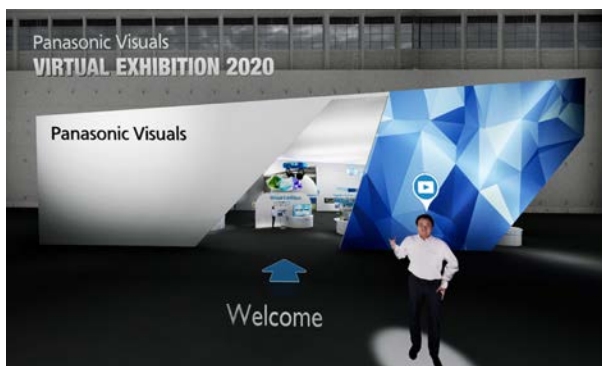
〒106-0047
東京都港区南麻布5-2-37
DEPECHE MODE 4F
TEL：03-5422-7515
FAX：03-5422-7516
E-mail：vt@uni-press.net

パナソニック映像

「Panasonic Visuals VIRTUAL EXHIBITION 2020」を開催中

コンセプトは「コネクティッド プロデュース」

「オンライン展示会」「ウェビナー」「リモート&ネットワーク撮影」を新たな事業の柱に



パナソニック映像(株)が、オンライン展示会「Panasonic Visuals VIRTUAL EXHIBITION 2020」を開催している。オンライン展示会場は「On-Line/Virtual」「Space Player」「3D Photo Scanner/Content & Video」「VR」「Hologram/Post Production」「String Vision/Event Stage/Drone Shooting」の7ゾーンで構成。展示パネルや映像での紹介に加え、

チャットを用いることでリアル展示会のような担当者との対話も可能とするなど、各ソリューションについてわかりやすく紹介・解説する。また、Event Stageでは連日様々なトークショーも展開している。同オンライン展示会のプラットフォームにはパナソニックシステムデザイン社(PSD)との連携で開発した「Grooon plus」を採用。オンライン展示会に求められる「情報の伝達」、オンライン展示会が故の課題である「集客保持力」や「安全性・安定性」、log解析などで得た来場者の情報をマーケティングに活かす「情報収集」、新しい挑戦を可能とする「カスタマイズ性」などを実現している。同社では、期間中に約1000人の来場者とともに、100件のオンラインアテンド、10数件のリアルアテンドの実現を目標としている。開催期間は24日まで。なお、「Panasonic Visuals VIRTUAL EXHIBITION 2020」への来場は無料だが、限定公開イベントのため、参加希望者はメール(pvi_info@gg.jp.panasonic.com)で問い合わせること。オンライン展示会の開催に先立ち、19日にパナソニック映像 品川 SpacePlayer LABで行われたマスコミ説明会では、代表取締役の宮城邦彦氏が「withコロナ時代を迎えて」「Panasonic Visualsの挑戦」「オンライン展示の体験」をテーマに、同社における今後の事業の方向性などについてプレゼンテーションした。

新しい使命は「知見と技術を活かし、開催困難となったリアルイベントをバーチャルで実現」

マスコミ説明会で、宮城氏は「コロナ禍によって今までリアルで行われていたものができなくなる一方で、みんながオンラインの必要性に気づき始めた。今、withコロナの時代を迎え、リアルなイベントも様々な制限の下で実施されながらもオンラインは必須となった。Afterコロナの時代



リアルとオンラインによるマスコミ説明会

もリアルとオンラインの共存は想定され、当社でもオンラインを重視した活動が必要な時代を迎えた。当社の使命はクライアントの「思い」「伝えたいこと」をコンテンツとしてしっかり仕上げることだが、メインの映像制作に加え、最近是非常に増えてきていた空間演出の業務も、コロナ禍の影響でできなくなってきた。当社として次にやるべきことは、開催

困難となったリアルイベントを、当社の知見と技術を活かしてバーチャルで実現することが新しい使命だと考え、今年度から新たな取り組みを始めた」と述べ、同社事業の新たな柱として「ウェビナーサポート」「バーチャル展示会サポート」「リモート撮影&編集サポート」の3つを挙げた。

「ウェビナー」については、同社では4月からコクリポをはじめとして各社と連携を深め、約100件のウェビナーを展開しており、現在では様々なウェビナーツールを使った業務を展開している。今回のオンライン展示会でも4日間で7つのトークショーを自社で企画、実施する。

また、「バーチャル展示会のサポート」については「当社では演出やクリエイティブ、技術、表現などを得意としてきたが、世の中に沢山あるツールやプラットフォーム、アプリケーションを上手く使いこなし、その結果として最大価値を生み出す表現を目指している。オンライン展示会で求められているのは確実に情報を伝えることだけでなく、「情報を集めること」も大事。一方、リアルの展示会では「1回来てしまったので最後まで見よう」となるが、オンライン展示会では、つまらなければすぐに離脱されてしまう。これはオンライン展示会の致命的な欠点であり、コミュニケーションによっていかに集客を保持し続けるかがポイントとなる。さらに「安心・安全」について留意する必要があるほか、新しいことに取り組むための「カスタマイズ性」が大事」と述べた。

PSD との連携が大きなカギ



今回の「Panasonic Visuals VIRTUAL EXHIBITION 2020」では、パナソニックシステムデザイン社（PSD）との連携が大きなカギになったという。プラットフォームには PSD が開発した「Grooon」の特徴である 360 度ぐるーんと見回せる VR パノラマツアーに、新たにコミュニケーション機能を加えた「Grooon Plus」を採用。パナソニック映像がデザインした会場やブースなどのビジュアルを Grooon のプラットフォームに実装、ウェビナー連動や 3D アバター、その他の様々な Web ツールとコンテンツが組み合わされて構成されている。宮城氏は「自分たちの思いでツールを触れなければ、決して良いものには仕上がらない。当社が持つ映像表現と PSD のプログラミング技術を重ねることによって、大規模なオンライン展示会が実現した」。

また、現在の通信環境や視聴環境がまだ制限が多いため、今回は静止画ベースとなっているが、5G が普及し、お客様の視聴環境が進めば、もっとリアルに動かすことができるようになる。その準備をするために、今回はゲームエンジン「UNREAL」でデザインした（宮城氏）としている。



説明会場では宮城邦彦氏が UNREAL 版による「Panasonic Visuals VIRTUAL EXHIBITION 2020」の滑らかな動きを披露した



「Panasonic Visuals VIRTUAL EXHIBITION 2020」の概要は次の通り。

[On-Line/Virtual] ▽ Virtual Museum：3D モデルやアテンド追従機能を加えたバーチャルツアーなど、ワンランク上の VR 空間を提案する ▽ Virtual Event：リアル会場をオンライン上で展開。360 度の移動空間を自由にアレンジ ▽ Virtual Exhibition：オンライン上の架空の展示会場を自由に回遊して様々な機能を体験 ▽ Interactive Movie：映像に様々な情報や選択肢を加えることで、新しい視聴体験へ ▽ Webinar：製品発表会やセミナー、カンファレンスなどをオンラインで開催。

[SpacePlayer] ▽ SpacePlayer Lab.：「SpacePlayer」空間演出事例を体感できるショールーム ▽ Wall Art Mapping：大型壁面から小型アートパネルまでテクスチャー感あるマッピング演出を紹介 ▽ Smile Package：子どもも親も大好きな塗り絵コンテンツを気軽に導入できるパッケージ ▽ Logo Mapping：立体的なロゴ看板にワンポイントマッピング演出で彩る。

[VR] ▽ Interactive VR：高画質／HDR 対応の移動できるインタラクティブ VR ▽ 11K VR：高画質による臨場感を提供、HDR 等グレーディングにも対応 ▽ VR Glasses：4K 超／HDR 対応の OLAD グラス。

[3D Photo Scanner/Content & Video] ▽ 3D Photo Scanner：70 台の高画質カメラで瞬間撮影、高品質なアバターを手軽に作成できる ▽ Infomation：展示物案内／ライブイベント入場 ▽ Content & Video Production：世界中の顧客にパナソニック・クオリティの映像制作を提案する。

[Hologram/Post Production] ▽ Holographic Aquarium：業界初！現実の魚とホログラムの魚と一緒に泳ぐ不思議な水槽 ▽ 3D Hologram：立体感あふれる不思議な 3D ホログラムで商品の注目度を格段にアップ。 ▽ Post Production：ハード・ソフトの特性を知り尽くし、制作実績のあるスタッフが、編集・カラーグレーディング・VFX・MA・オーサリングまでトータルにサポート。

[String Vision/Event Stage/Drone Shooting] ▽ String Vision：浮遊感ある映像が空間を彩るプロジェクションアート ▽ Event Stage：バーチャル展示会の集客の要となるオンラインイベントの撮影から演出、運営までトータルサポート ▽ Drone Shooting：豊富な実績で映像制作をサポート。ドローンによる会場上空の世界も ▽ Shooting Staff：多様化する映像表現で戦う、最新技術・最新機材を知り尽くしたプロ集団 ▽ toiRo：Panasonic Visuals の SNS クリエイター集団「toiRo」を紹介。

「リモート&ネットワーク撮影」を 3 本目の柱に

さらに、コロナ禍の影響でイベントができない要因・課題（感染リスク、人手不足、ブース確保・設営ができない、遠方から来てもらえない、開催期間も悩ましいなど）を、ネットワークを使うことで撮影機材などの接続を容易にし、遠隔地から制御する「リモート&ネットワーク撮影」が動き出してきたという。

宮城氏は「当社では 8 月末に東京 03 の単独ライブをカメラ・リモコン・スイッチャーを LAN ケーブル 1 本で制御する試みに挑戦している。NDI（ネットワーク・デバイス・インターフェース）を応用することで接続やセッティングが簡単にでき、システムのコスト抑制ができる。これは私がパナソニックの事業部にいる頃から言い続けているが、以前は怖がっていた放送局でも、コロナ禍

の影響でその方向性になってきた。実際のライブイベントをできないアーティストも多い。当社では現場に行かなくても撮影・編集できる「リモート&ネットワーク撮影」をビジネスの3本目の柱として取り組んでいく」と述べた。なお、今回のオンライン展示会では、この事例をテーマとしたトークイベントを21日に開催している。

宮城氏は「社内ポジビリティと外部協創のあらゆるアイデア・クリエイティブ・先端技術・ネットワークなどをつなげ・組み合わせ・創造する「コネクティッド プロデュース」をコンセプトに業務を進めていく。今回の「Panasonic Visuals VIRTUAL EXHIBITION 2020」は、当社の演出力と PSD のプログラミング力が連携し、新たな価値を見いだすようなオンライン展示会になっているので、是非、体験して欲しい」としている。

Event Stage で Web セミナー&トークショー

開催期間中、Event Stage では各種の Web セミナー&トークショーが展開された。

20日にはオープニングウェビナー「バーチャル展示会開催に際し」を実施(写真→)。ゲストの東 淳日氏(パナソニック システムデザイン(株))をゲストに迎え、パネラーの西山 誠氏と高橋大悟氏(ともに Panasonic Visuals)、ファシリテーターの宮城邦彦氏が、with コロナ時代における



Panasonic Visuals の役割、PSD との連携、Grooon の紹介、今後の展望などを語ったほか、PSD 代表取締役社長の岩崎 哲氏がビデオメッセージを寄せた。



また、「他社に差をつけよう！ドラマで見るウェビナー成功への道！」では、Panasonic Visuals TOKYO 演出メンバー他が出演(←写真)。参加者のアンケート結果で選択された初心者の方のウェビナーにおける運営の悩みや視聴者を惹きつける手法などについて、ドラマ仕立ての動画で解説した。

21日には「東京 03 単独公演『ヤな塩梅』ライブ配信の撮影現場レポート」をパナソニックセンター東京 B スタジオから届けた。コメンテーターは前田 博氏(パナソニック(株))と貝谷慎一氏(Panasonic Visuals)、ファシリテーターは中村貴志氏(Panasonic Visuals)がとめ、天王洲にあるパナソニック映像 品川と有明のパナソニックセンターを結び、遠隔地におけるカメラ制御のデモンストレーションも実施した。

今後のプログラムは次の通り。

▽「映像で広がる地域共創 @ 京丹波～生産者と消費者をつなぐ・黒枝豆編～」(22日 15:00～15:45)：出演者は中野武久氏(農業生産法人 丹波村(株) 代表)、木戸雄一郎氏(grow rice project 代表)、堀田裕介氏(grow rice project 料理開拓人)。ファシリテーターは林 慎二郎氏(Panasonic Visuals)。

▽「天王洲イベントにみるリアルとオンラインの取り組みと未来」(23日 13:30～14:15)：ゲストは一般社団法人 天王洲・チャンネルサイド活性化協会、ファシリテーターは高橋大悟氏(Panasonic Visuals)。

◇パナソニック映像 <https://panasonic.co.jp/cns/pvi/>